



“地域のことは地域で考えよう”

2018年2月27日

おきぎん県内景況・速報 2018年1月

一県内景況は、拡大している一

■個人消費

スーパー売上高は全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回る。
百貨店売上高は前年同月を下回る。
家電卸出荷額は前年同月を下回り、新車販売台数も上回る。

■建設関連

公共工事請負金額は前年同月を上回る。
生コン、セメントはともに前年同月を上回る。

■観光関連

入域観光客数は前年同月を上回り、観光施設入場者数は下回る。
ホテル稼働率は、シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回る。ホテル客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入(推計値)は下回る。

■企業倒産

件数は前年同月を下回り、負債総額は上回る。

現場主義とお客様からの信頼

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

(株)おきぎん経済研究所

TEL:098-869-8711 FAX:098-869-2200

おきぎん県内景況・速報(2018年1月分)

◎2018年1月 おきぎん「カトレア」景況図



◎概況：県内景況は、拡大している。

1月の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに、前年同月を上回りました。百貨店売上高は衣料品や食料品などが伸びず、前年同月を下回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、エアコン、冷蔵庫が伸びず、前年同月を下回りました。新車販売台数は、普通乗用車や軽乗用車などの需要増加により、前年同月を上回りました。

建設関連では、公共工事請負金額は、国や市町村発注工事の増加などで前年同月を大幅に上回りました。建設資材である生コン、セメントはともに前年同月を上回りました。

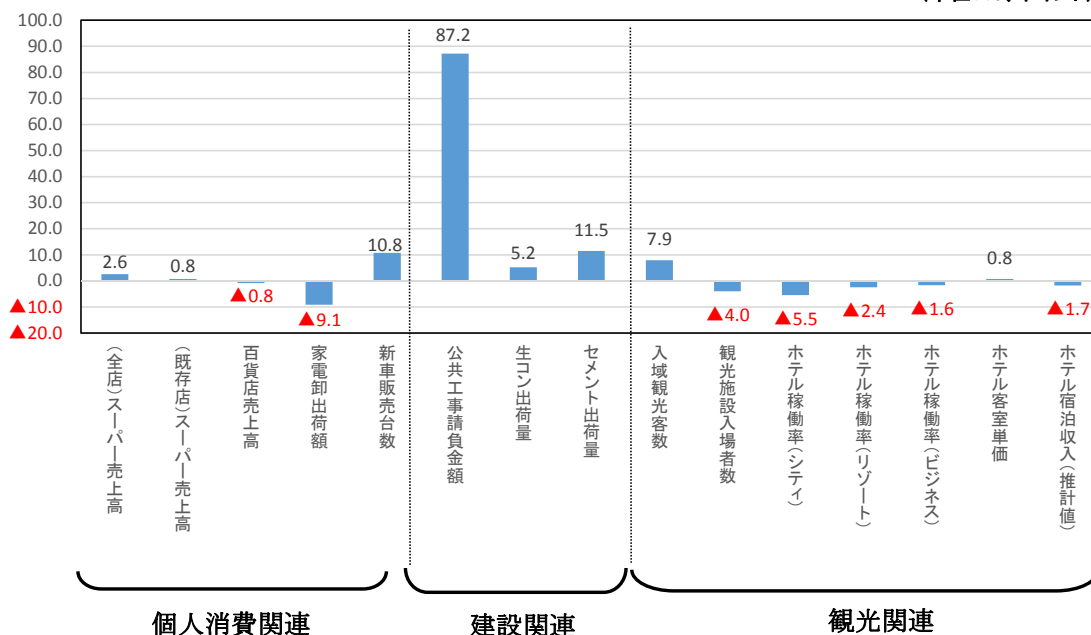
観光関連では、入域観光客数は64ヵ月連続で前年同月を上回り、観光施設入場者数は前年同月を下回りました。ホテル稼働率はシティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回りました。ホテル客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入(推計値)は下回りました。

このような状況に鑑みて、個人消費や建設関連が概ね堅調であり、観光関連でも好調な動きが継続していることなどから「県内景況は拡大している」と景気判断を据え置きました。

(2014年2月の上方修正後から48ヵ月連続で判断維持)

主要景気指標前年同月比

(単位: %、ポイント)



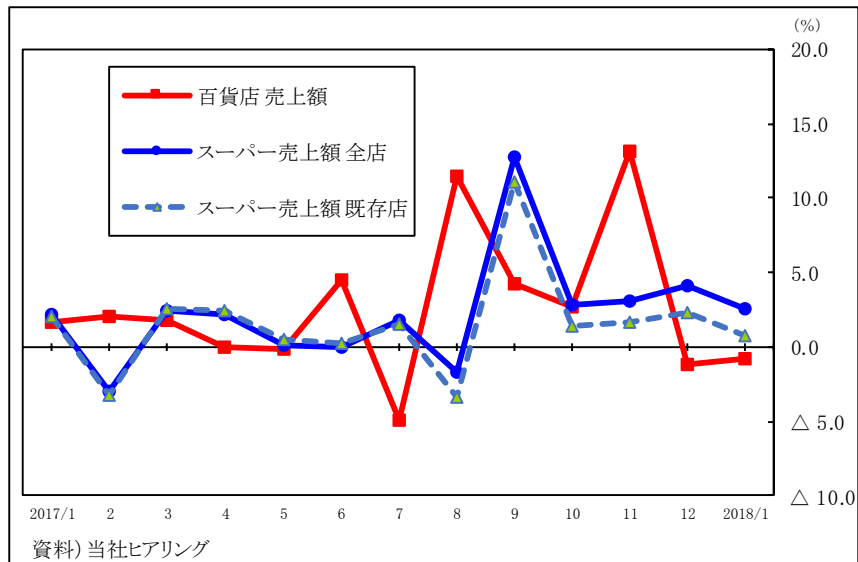


■ 個人消費： (やや良い)

① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回る。百貨店売上高は前年同月を下回る。

単位：%

	スーパー売上額		百貨店
	全店	既存店	売上額
2017/1	2.2	2.0	1.7
2	△ 3.0	△ 3.2	2.0
3	2.4	2.6	1.8
4	2.2	2.4	△ 0.02
5	0.1	0.5	△ 0.1
6	△ 0.03	0.2	4.5
7	1.8	1.5	△ 4.9
8	△ 1.7	△ 3.4	11.5
9	12.8	11.1	4.2
10	2.8	1.4	2.7
11	3.1	r 1.7	13.2
12	4.1	2.3	△ 1.2
2018/1	2.6	0.8	△ 0.8



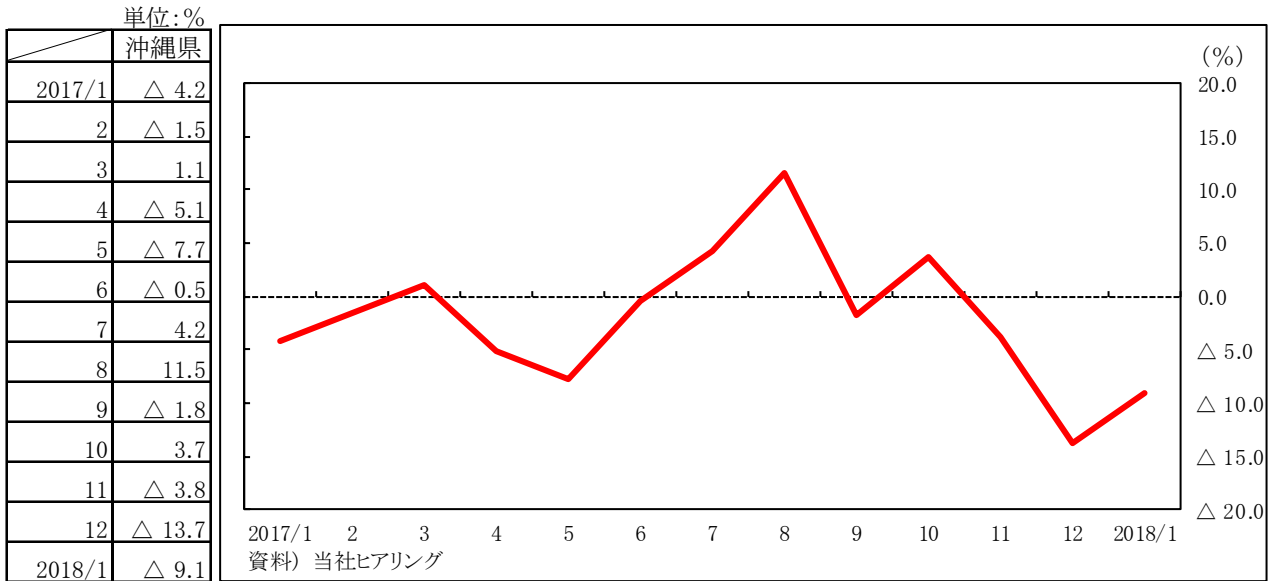
注) 前年同月比

1月の個人消費関連では、スーパー売上高「全店ベース(前年同月比 2.6%増)」は、新規出店効果などにより、「食料品(同 2.5%増)」、「家庭用品(同 3.8%増)」などの売上が伸び、5ヵ月連続で前年同月を上回りました。

「既存店ベース(同 0.8%増)」は、5ヵ月連続で前年同月を上回りました。品目別では、ウェイトの高い「食料品(同 0.7%増)」は、一部で、旧正月の時期が昨年と比べ後ずれしたことや、青果で相場高騰が続いている影響が見られたものの、精肉、水産など鍋物関連の食材需要が増加し、前年同月を上回りました。また「家庭用品(同 1.9%増)」は、初売商戦からテレビやエアコンなどの売れ行きが堅調に推移し、前年同月を上回りました。一方で、「衣料品(同 0.4%減)」は、冬物商材の売れ行きが伸びず、前年同月を下回りました。

百貨店売上高は、衣料品、食料品の売上が伸びず、2ヵ月連続で前年同月を下回りました(同 0.8%減)。内訳をみると、ウェイトの高い「衣料品(同 3.6%減)」は、「紳士服(同 3.6%減)」、「婦人服(同 4.6%減)」は、セール企画を開催するものの、天候不順や前年より気温が低く推移したことなどにより、春物商材の売れ行きが低調で、前年同月を下回りました。また、「食料品(同 4.0%減)」は、一部青果で相場高騰が続いているほか、前年にあった催事の未開催などから、前年同月を下回りました。一方で、「雑貨(同 6.4%増)」は、売り場のリニューアル効果や、インバウンド需要の増加などにより前年同月を上回りました。

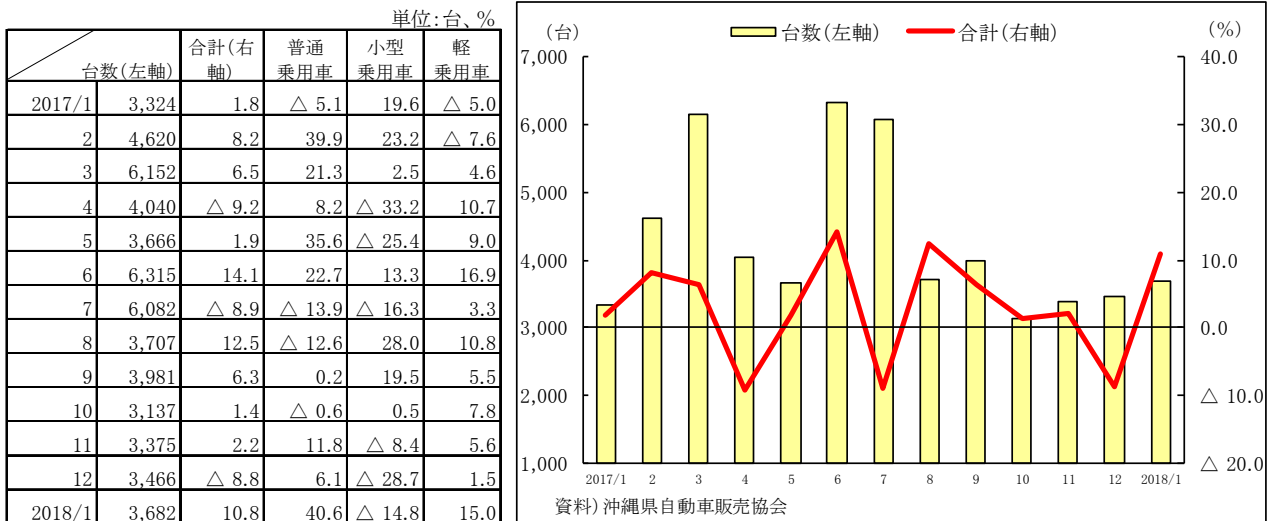
② 家電卸出荷額…家電卸出荷額は3ヵ月連続で前年同月を下回る



注) 前年同月比

家電卸出荷額は、テレビ、冷蔵庫、洗濯機の売れ行きが伸びず、3ヵ月連続で前年同月を下回りました(同 9.1%減)。品目別では、「洗濯機(同 35.9%増)」は、省エネ商品などの買い替え需要が好調に推移し、前年同月を上回りました。一方で、「冷蔵庫(同 13.4%減)」、「エアコン(同 18.0%減)」は前年に伸びた反動などにより、前年同月を下回りました。「テレビ(同 2.7%減)」は、高価格帯商品の売れ行きが伸びず、前年同月を下回りました。

③ 新車販売台数…新車販売台数は、2ヵ月ぶりに前年同月を上回る。



注) 前年同月比

注) 普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。

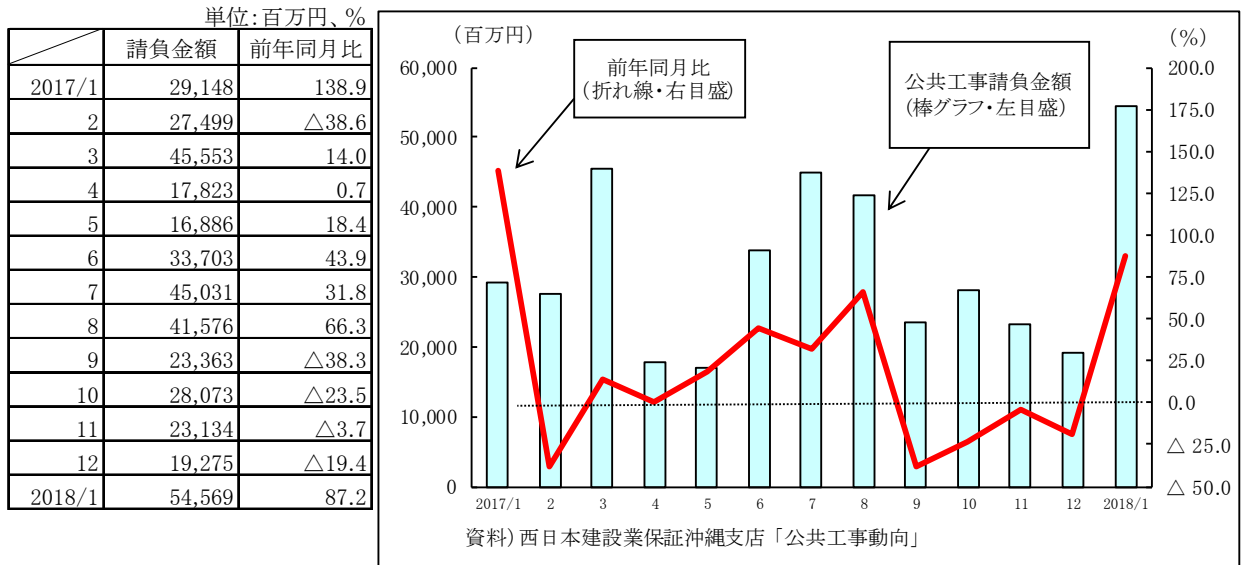
新車販売台数は、全体で3,682台(同 10.8%増)となり、2ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。車種別では、「普通乗用車(同 40.6%増)」は需要が好調に推移し、3ヵ月連続で前年同月を上回りました。また、「軽乗用車(同 15.0%増)」は、軽自動車税増税の影響により落ち込んだ前年の反動から、11ヵ月連続で前年同月を上回りました。一方、「小型乗用車(同 14.8%減)」は需要が伸びず、3ヵ月連続で前年同月を下回りました。

※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。



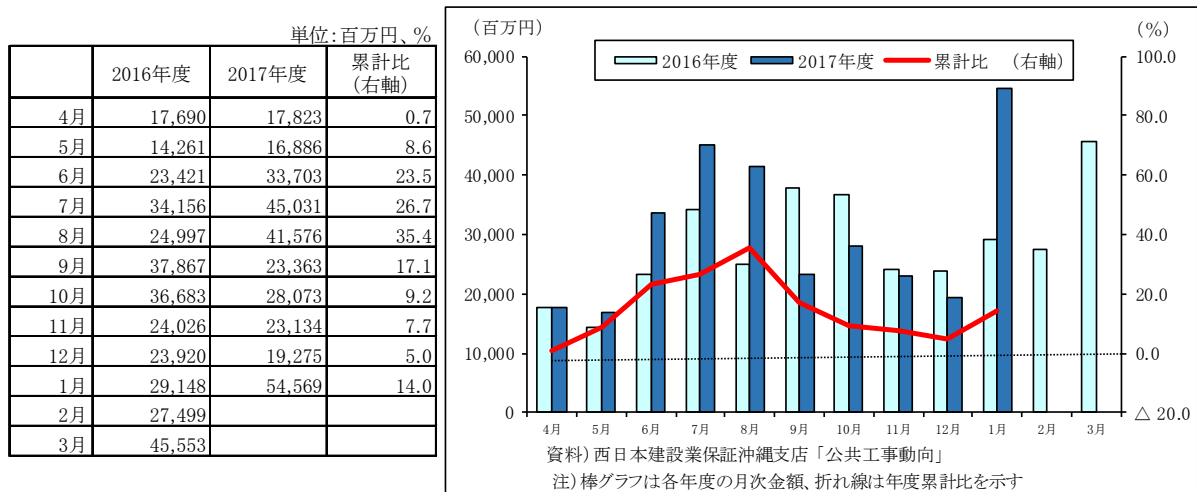
■ 建設関連： (良い)

①公共工事・・・公共工事請負金額は前年同月を上回る。



1月の**公共工事請負金額**は、前年同月比87.2%増の545億6,900万円となりました(5ヵ月ぶり増加)。発注者別でみると、「国(同948.6%増)」は沖縄防衛局のシュワブ関連工事などの大型工事で、「市町村(同37.8%増)」は嘉手納町での小学校校舎建設工事などで、「独立行政法人等」も前年同月を上回りました。一方、「沖縄県(同22.5%減)」は前年より工事件数の減少、「その他の公共的団体(同96.1%減)」は前年あった那覇空港際内連結ターミナル施設関連工事の反動などで下回りました。

【参考】公共工事(年度累計)・・・公共工事請負金額は前年同期を上回る。

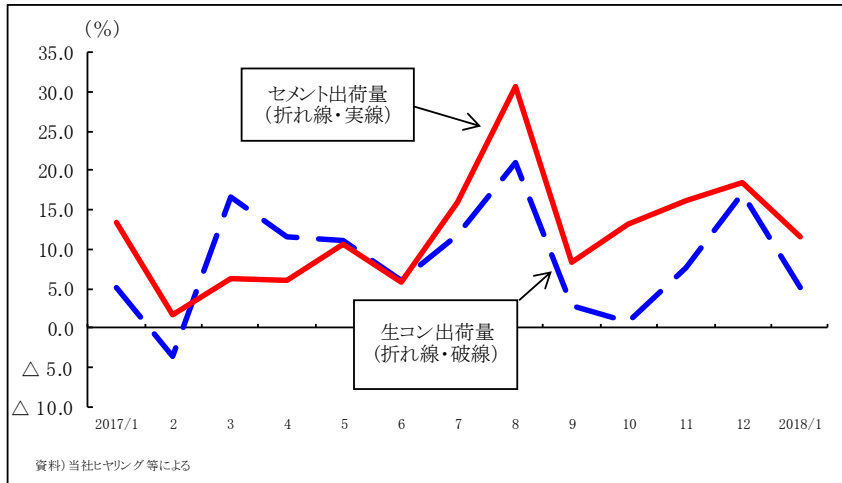


今年度4月～2018年1月までの累計を前年度同期と比較すると、14.0%増となっています。(上記折れ線グラフ)

②建設資材・・・生コン、セメントはともに前年同月を上回る。

単位:前年同月比(%)

	生コン	セメント
2017/1	5.1	13.5
2	△3.7	1.6
3	16.5	6.3
4	11.6	6.1
5	11.1	10.7
6	6.1	5.9
7	11.8	15.9
8	21.0	30.6
9	2.9	8.4
10	0.7	13.2
11	7.8	16.1
12	17.1	18.6
2018/1	5.2	11.5



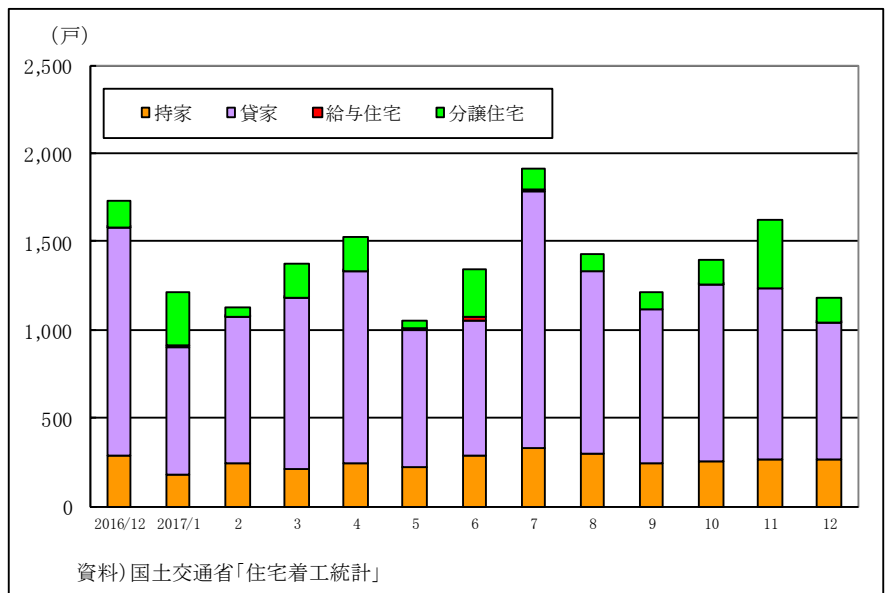
(注1) セメント出荷量は、速報値につき、確報にて修正される場合がある

建設資材関連では、生コンの出荷量は5.2%増と11ヵ月連続で前年同月を上回りました。内訳では、公共工事向け出荷が前年同月より6.3%上回り、民間工事向け出荷は4.6%上回りました。セメント出荷量は11.5%増と14ヵ月連続で前年同月を上回りました。

【参考】住宅投資(12月)・・・着工戸数は前年同月を下回る。

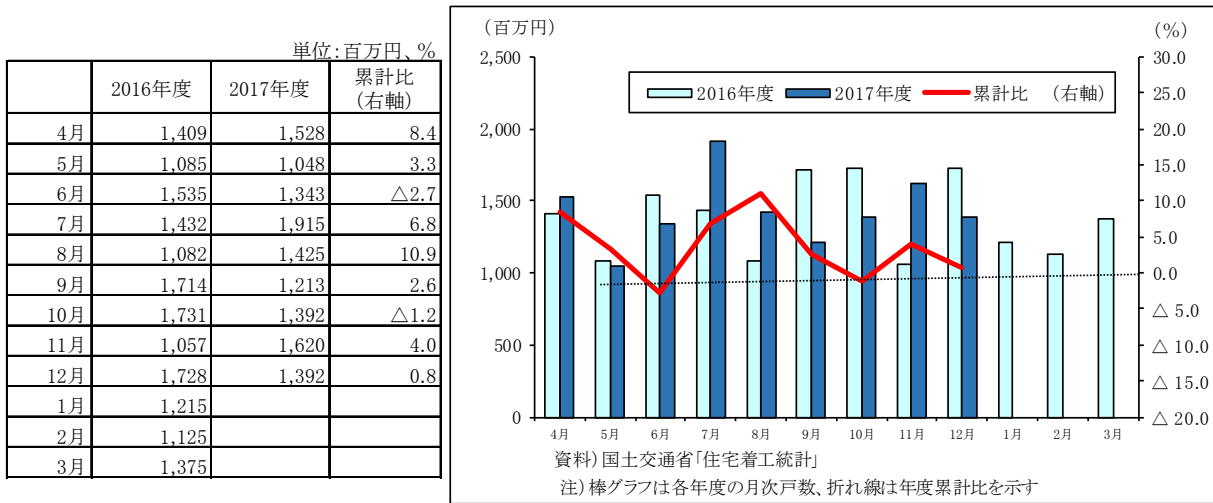
単位:戸、%

	着工戸数	前年同月比
2016/12	1,728	32.3
2017/1	1,215	△11.1
2	1,125	12.5
3	1,375	29.5
4	1,528	8.4
5	1,048	△3.4
6	1,343	△12.5
7	1,915	33.7
8	1,425	31.7
9	1,213	△29.2
10	1,392	△19.6
11	1,620	53.3
12	1,392	△19.4



新設住宅着工戸数(12月)は、全体で前年同月比19.4%減の1,392戸と2ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。利用別戸数を見ると、「分譲住宅(同143.4%増)」は前年同月を上回りましたが、ウェイトの高い「貸家(同40.1%減)」や「持家(同7.8%減)」、「給与住宅(同50.0%減)」は下回りました。

【参考】住宅投資（年度累計）・・・着工戸数は前年同期を上回る。



年度累計で見ると、0.8%増となっています。(上記折れ線グラフ)



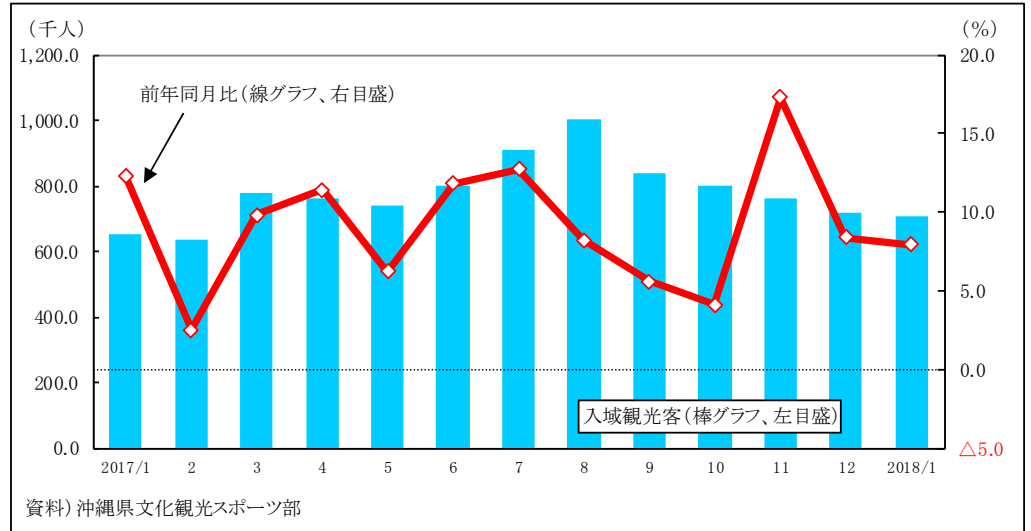
■観光関連： (良い)

①入域観光客数 (国内客・外国客の合計)・・・64ヵ月連続で前年同月を上回る。

単位:千人、%

	入域観光客	前年同月比
2017/1	653.0	12.3
2	637.9	2.5
3	778.5	9.8
4	759.2	11.4
5	740.6	6.2
6	798.8	11.8
7	907.9	12.7
8	1,002.5	8.2
9	837.1	5.6
10	799.3	4.1
11	762.9	17.3
12	718.5	8.4
2018/1	704.3	7.9

※外国客は乗務員等を含む

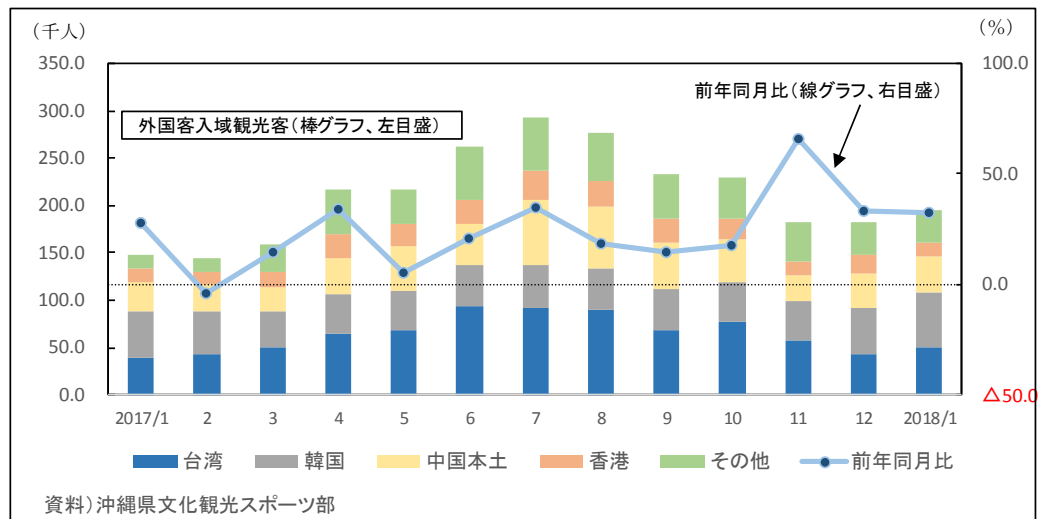


外国客 入域観光客数・・・11ヵ月連続で前年同月を上回る。

単位:千人、%

	入域観光客	前年同月比
2017/1	147.2	28.1
2	144.1	△ 3.9
3	158.4	14.9
4	217.6	34.2
5	216.8	5.0
6	261.5	21.1
7	292.7	34.7
8	275.7	18.8
9	233.5	14.8
10	229.2	17.7
11	182.4	65.5
12	183.1	33.5
2018/1	194.4	32.1

※外国客は乗務員等を含む



1月の入域観光客数は、51,300人多い704,300人(前年同月比7.9%増)となり、64ヵ月連続で前年同月を上回りました(1月としては過去最高)。

内訳をみると、「国内客(同0.8%増)」は509,900人と、航空会社による販売取組の強化(先行割引航空券の販売)により需要が好調に推移したほか、旅行会社の販売実績が前年並みにあったことなどから、3ヵ月連続で前年同月を上回りました。

他方、「外国客(同32.1%増)」は、194,400人と11ヵ月連続で前年同月を上回りました。年末年始の旅行需要の高まりや、航空路線の拡充(宮古・石垣へのチャーター便等)効果、クルーズ船の寄港回数増加等により前年同月を上回りました。

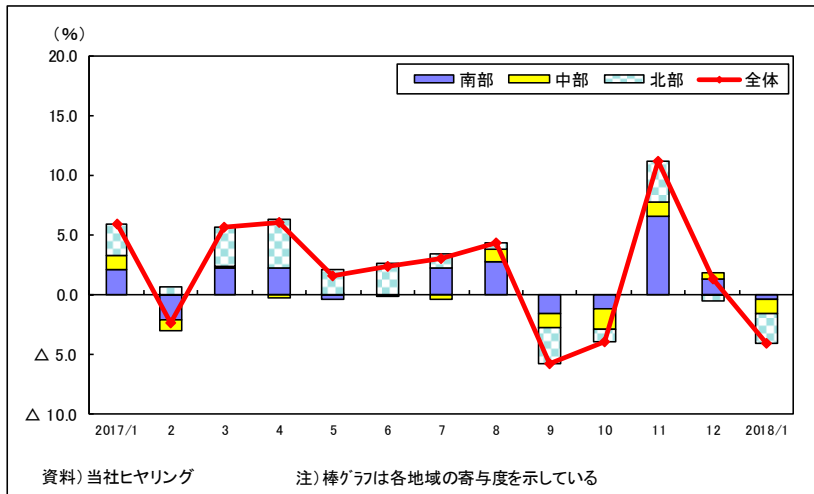
「台湾(同27.0%増)」「韓国(同16.4%増)」「中国本土(同31.3%増)」「香港(同9.3%減)」

※乗務員等を除く2018年1月実績＝全体681,000人(同5.6%増)、外国客171,100人(同23.2%増)、国内客は変わらない。

② 観光施設入場者数・・・3ヵ月ぶりに前年同月を下回る。

単位: %

	入場者数(前年同月比)			
	全体	南部	中部	北部
2017/1	5.9	5.4	r 9.0	5.5
2	△ 2.4	△ 5.6	△ 7.6	1.3
3	5.6	5.6	1.6	6.7
4	6.1	5.8	△ 1.8	8.5
5	1.5	△ 1.2	0.04	4.2
6	2.4	△ 0.1	△ 1.3	5.0
7	3.0	6.7	△ 3.9	2.2
8	4.3	8.1	9.7	1.0
9	△ 5.8	△ 4.7	△ 10.5	△ 5.6
10	△ 4.0	△ 3.1	△ 14.5	△ 2.0
11	11.1	15.7	9.7	7.3
12	r 1.2	r 3.2	r 3.2	△ 1.2
2018/1	△ 4.0	△ 1.3	△ 7.7	△ 5.1



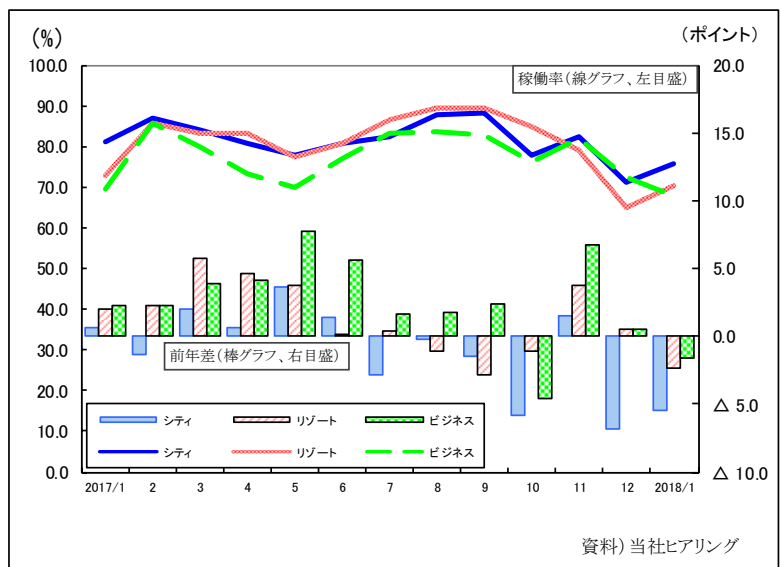
※調査対象施設数=南部6、中部6、北部5施設
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

観光施設入場者数は、全体で前年同月より4.0%減少(3ヵ月ぶり)しました。地域別にみると、南部にある観光施設は同1.3%減と3ヵ月ぶり、中部は同7.7%減と3ヵ月ぶり、北部は同5.1%減と2ヵ月連続で前年同月を下回りました。

③ ホテル稼働率・・・シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回る。

単位: %、ポイント

	稼働率			前年同月差		
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス
2017/1	r 81.3	r 72.9	69.6	r 0.7	r 2.0	2.3
2	r 86.9	85.6	85.7	r △ 1.3	2.3	2.3
3	r 84.0	83.0	79.8	2.0	5.7	3.9
4	80.9	83.1	73.4	r 0.7	4.6	4.1
5	r 77.6	77.2	69.9	3.6	3.7	7.7
6	r 80.5	80.8	76.9	r 1.4	0.1	5.6
7	r 82.2	86.6	83.0	r △ 2.9	0.4	1.7
8	87.6	89.4	83.8	r △ 0.2	△ 1.1	1.8
9	r 88.0	89.3	82.8	r △ 1.5	△ 2.8	2.4
10	r 77.6	84.9	76.3	r △ 5.8	△ 1.1	△ 4.6
11	r 82.4	78.9	81.8	r 1.5	3.8	6.8
12	r 71.2	65.0	72.5	r △ 6.8	0.5	0.5
2018/1	75.8	70.5	68.0	△ 5.5	△ 2.4	△ 1.6



注) シティ8ホテル、リゾート18ホテル、ビジネス7ホテル

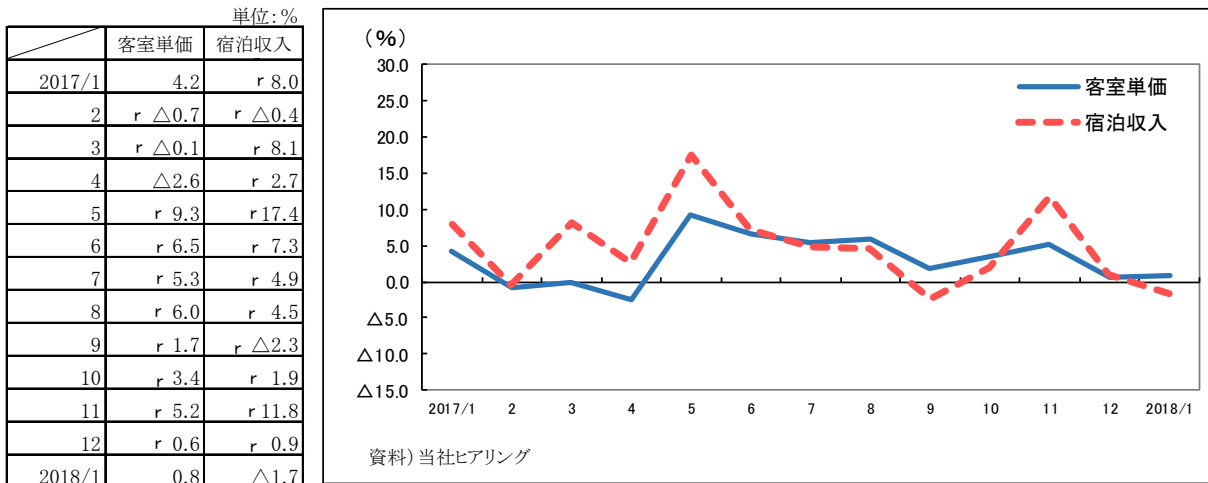
注) 2018年1月より、シティホテル対象施設数が変更(9⇒8)となったことから、2017年1月以降の数値を遡って改定した。

注) 2016年4月より、リゾートホテル対象施設数が変更(19⇒18)となったことから、2015年4月以降の数値を遡って改定した。

※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

県内ホテル稼働率は、シティホテルが75.8%と5.5ポイント減少(2ヵ月連続)、リゾートホテルが70.5%と2.4ポイント減少(3ヵ月ぶり)、ビジネスホテルが68.0%と1.6ポイント減少(3ヵ月ぶり)しました。

④ ホテル客室単価・宿泊収入・・・客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入は下回る。



※対象施設数:26施設(シティ8、リゾート18)、ビジネスは除く

※客室単価は26施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計)

※2018年1月より、シティホテル対象施設数に変更(9⇒8)となったことから、2017年1月以降の数値を遡って改定した。

※2016年4月より、リゾートホテル対象施設数に変更(19⇒18)となったことから、2015年4月以降の数値を遡って改定した。

※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

ホテル客室単価(シティ&リゾート)は前年同月比 0.8%増と前年同月を上回りました。**宿泊収入**は同1.7%減と前年同月を下回りました。

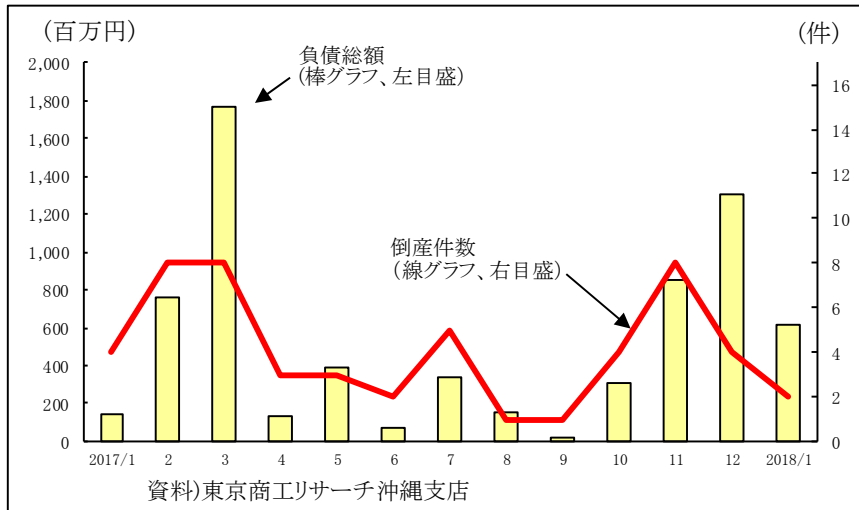


■企業倒産： (やや良い)

企業倒産・・・件数は前年同月を下回り、負債総額は上回る。

単位:百万円、件

	負債総額	倒産件数
2017/1	141	4
2	760	8
3	1,766	8
4	130	3
5	391	3
6	70	2
7	334	5
8	157	1
9	16	1
10	307	4
11	852	8
12	1,299	4
2018/1	620	2



1月の企業倒産件数は、2件(うち大口倒産は1件)となり、同50.0%減と前年同月を下回りました。負債総額は6億2,000万円となり、前年同月より339.7%増加しました。

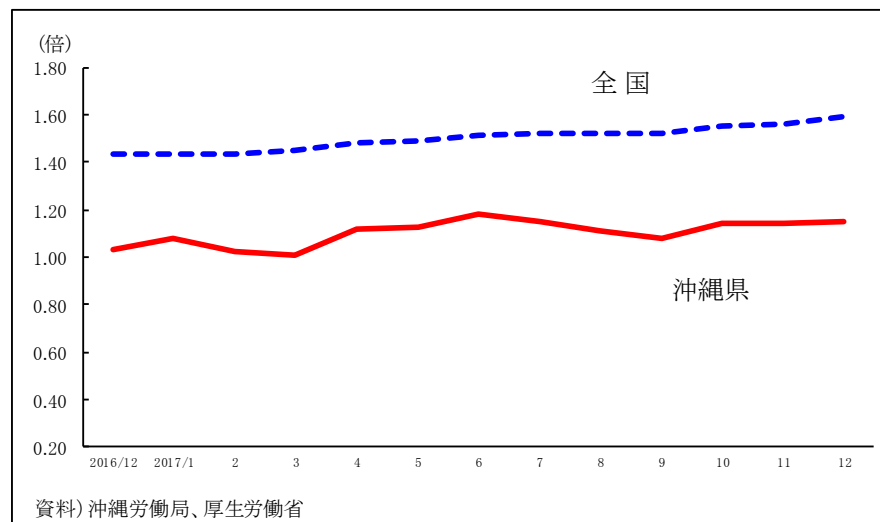


【参考】雇用関連： (良い)

有効求人倍率(12月)・・・沖縄、全国はともに前月より上昇。

単位:倍

	沖縄県	全国
2016/12	1.03	1.43
2017/1	1.08	1.43
2	1.02	1.43
3	1.01	1.45
4	1.12	1.48
5	1.13	1.49
6	1.18	1.51
7	1.15	1.52
8	1.11	1.52
9	1.08	1.52
10	1.14	1.55
11	1.14	1.56
12	1.15	1.59



注)季節調整済

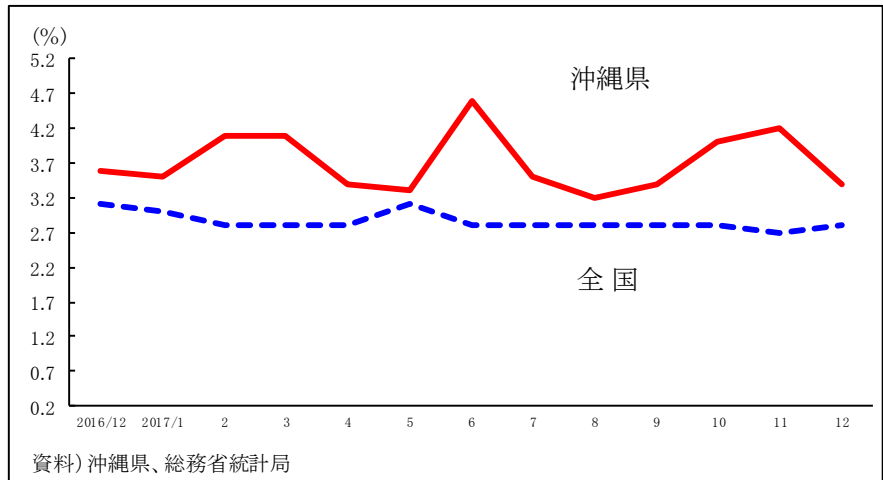
注)季節調整法は、センサス局法Ⅱ(X-12-ARIMA)による

12月の雇用状況は、月間有効求人数(季節調整値)は前月比1.8%増の29,642人に対して、月間有効求職者数(同上)は前月比1.1%増の25,758人となり、有効求人倍率(季節調整値)は1.15倍となり前月より0.01ポイント上昇となりました。

完全失業率（12月）・・・沖縄は前月より低下、全国は上昇。

	単位:倍	
	沖縄県	全国
2016/12	3.6	3.1
2017/1	3.5	3.0
2	4.1	2.8
3	4.1	2.8
4	3.4	2.8
5	3.3	3.1
6	4.6	2.8
7	3.5	2.8
8	3.2	2.8
9	3.4	2.8
10	4.0	2.8
11	4.2	2.7
12	3.4	2.8

注) 季節調整済



12月の完全失業率(季節調整値)は、3.4%となり前月より0.8ポイント低下しています。